

# 生徒の興味づけを意識した導入展開例 ～韓国を事例に～

静岡市立清水商業高等学校 永井秀紀

## 1. はじめに

一般に地誌というと、その地域の特性を位置をはじめ地形・気候・産業・文化などの様々な分野から総合的に解明していくものであり、またそうすることにより地理の見方・考え方を身につけ、最終的には自国と異なる社会を見る目、および他国との相互理解を育てるものだと考えています。そこで今回は、上記のことを踏まえ、自分が日頃からテーマとしている授業内容の関連性を失わずに、いかにして生徒の興味関心を引き出すか、また地理を学ぶこと、知ることの面白さを感じさせるかを考慮し、教科書2部選択章3『近隣諸国の生活・文化と日本』の単元から韓国を取り上げ、1つの授業展開を提案したい。

## 2. 導入

今回は導入に『韓国度チェック』と題し、教科書p.120～125、『新詳地理資料COMPLETE』p.100～103の内容から、少し…?と思われる設問(注)もあるが、生徒の興味関心を引き出す意味も込め、YES・NO形式で20題出題することとした。

### ☆韓国度チェック☆

(設問) 次の各設問にYES・NOで答えなさい。

- ①韓国ドラマ「冬のソナタ」にはまって以来、韓国ドラマ・映画をチェックしている。
- ②「ペ」のつく有名人は林家ペーではなく、ペ・ヨンジュンだ。
- ③よく聴く外国人アーティストは、BoAだ。
- ④箸は、鉄製を愛用している。
- ⑤ご飯は、箸でなくスプーンで食べる。
- ⑥食事の際に茶碗は手に持たない。
- ⑦もんじゃやお好み焼きよりチヂミが好きだ。
- ⑧チョコといえば、ロッテ(コアラのマーチ)だ。
- ⑨キムチがあれば、ご飯を何杯でもいける。

- ⑩少しまとまった休みが取れたら、国内旅行でなく韓国へ行きたい。
- ⑪ソウルと聞くと、大和魂を揺さぶられるよりも首都「ソウル」をイメージする。
- ⑫プサンと聞くと、プーさんの間違いじゃないの?と思わずに、港湾都市プサンをイメージし、「釜山港に帰れ」を口ずさんでしまう。
- ⑬38という数字を見ると、ミツバチ? 何の暗号だ?とは思わずに、すぐに南北境界線だと思う。
- ⑭冬の防寒対策は、こたつではなくオンドルだ。
- ⑮友人との挨拶は、つい「アニョンハセヨ」と言ってしまう。
- ⑯両親など、目上の者を敬う気持ちは常に持っている。
- ⑰結婚後は夫婦別姓を望む。
- ⑱海外の民族衣装といえば、「チマチョゴリ」だ。
- ⑲将来、自動車を買うなら「ヒュンダイ」製、TVを買うなら「サムスン」製だ。
- ⑳大学の第2外国語では韓国語を選択したい。

### ☆判定結果☆

●YESと答えた問題の数で判定します。

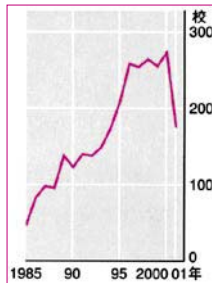
- A (15問以上)：韓国の達人です。私の代わりに授業してみませんか。
- B (10-14問)：ちょっとした韓国通ですね。もっと知るともっと楽しくなりますよ。
- C (9問以下)：…ですよ。世界を知るにはまず隣国から、一緒に勉強しましょう。
- ※設問は、その後の授業展開を考慮し、あらかじめ全員がCに該当するように作っている。

## 3. 展開

上記の設問は、韓国の地誌を知るうえで重要なキーワードが多々含まれている。そのためここからの展開パターンはいくつも考えられるが、今回はまず設問⑩に着目させ、オーソドックスに日報

(注)帝国書院 新地理Aに記述のあり : ④・⑥・⑨・⑪・⑫・⑬・⑭・⑯  
 世界の諸地域NOWに記述あり : ①・④・⑤・⑥・⑨・⑩・⑪・⑫・⑬・⑭・⑯・⑲・⑳  
 新詳地理資料COMPLETEに記述あり : ④・⑤・⑥・⑨・⑪・⑫・⑬・⑭・⑯・⑲・⑳

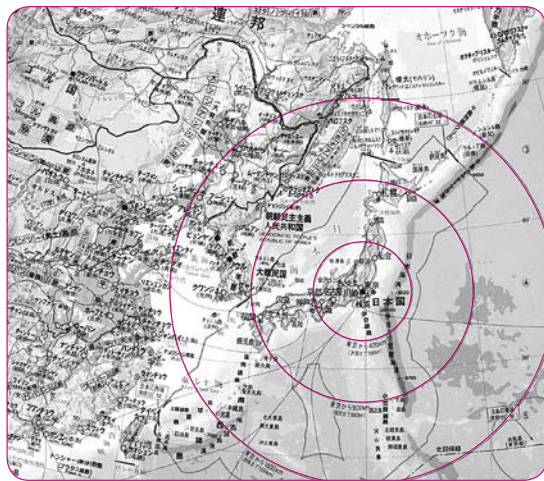
の位置関係から展開することとした。この設問に対する生徒の反応は、おそらく大半がNOであろう。そこで教科書p.124『韓国に修学旅行に行く日本の学校数』のグラフに注目させる。01年にアメリカ同時多発テロの影響で



帝国書院『高等学校新地理A（最新版）』p.124

下がっていることを除き、生徒は、間違いなく80年代後半から急速に校数が伸びていることをに気づくだろう。そしてなぜこのように増加しているのかと単純な疑問が浮かび、少なからず韓国への興味関心を持つのではないかと考える。

次にその「なぜ」を追求するため、設問⑪⑫から韓国を代表する都市ソウル・プサンと日本の位置関係を地図帳p.19『日本の近隣諸国』より調べさせる。



帝国書院『新詳高等地図（最新版）』p.19～20

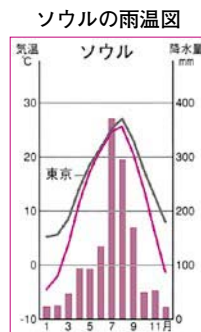
この地図は、東京からの距離が同心円で描かれているためそれを有効に利用する。またその際、自分達が修学旅行で行く沖縄との距離も比較させることで、その位置関係をより明確に把握することができる。しかし、同地図内で距離の近さだけを見るのであれば、ロシアのウラジオストクあたりと同じであるため、さらに「なぜ」を追求する。

そこで設問⑬から先ほどと同じ地図帳p.19を利用し、経緯度に注目させる。まずは日本との経度差を調べる。その際、もちろん日本は標準時の兵

庫県明石市を通る東経135度と、比較する。韓国は沖縄とほぼ同じ東経120度代後半であることから、生徒は海外でありながら国内よりも距離が近いだけでなく、時差のないことに気づくだろう。

続いて緯度についてみる。設問⑬の38という数字は北朝鮮と韓国の軍事境界線、北緯38度のことである。首都ソウルは、ほぼ同緯度に位置すると考えてよいだろう。では日本における同緯度はどこにあたるか。それはほぼ東北地方南部であり、生徒はそこから韓国の気候が日本と同じC気候区であることは容易に判断できる。

そこで資料p.100のソウル雨温図に注目させる。この雨温図は東京の気温変化も載っているため、



帝国書院『新詳地理資料COMPLETE（三訂版）』p.100

比較させる。夏はさほど変わりはないが、冬は大陸性気候の影響で氷点下となり、寒さがかなり厳しいことに気づく。そのため農作物栽培には適さないことは生徒も想像がつかだろう。では冬場の食糧不足はどうするのか。ここで新たな「なぜ」が生まれる。単純に輸入することも1つの方法だが、ここでは保存食を作るという言葉を導き出したい。それが韓国ではキムチとなる。（設問⑨と関連）キムチは、野菜不足・ビタミン不足の解消だけでなく、唐辛子には体を温める作用があり、まさに韓国の厳しい冬の気候に対応して生まれた食文化といえる。さらにこの流れの中で設問④～⑦・⑭とも結びつけていくことができるだろう。

## 4. 最後に

まだ展開の途中であるが、このように繰り返す疑問をぶつけ、それを解消していくことで、知らず知らずに生徒はその国に興味関心を持ち、またその特色を理解していくだろう。そしてそうした中、最終的にいつかその国へ行ってみたい、また他の国はどうなんだろうと思ってもらえれば、ここでの授業の果たす役割は、ぼちぼち成功したといえるのではないだろうか。